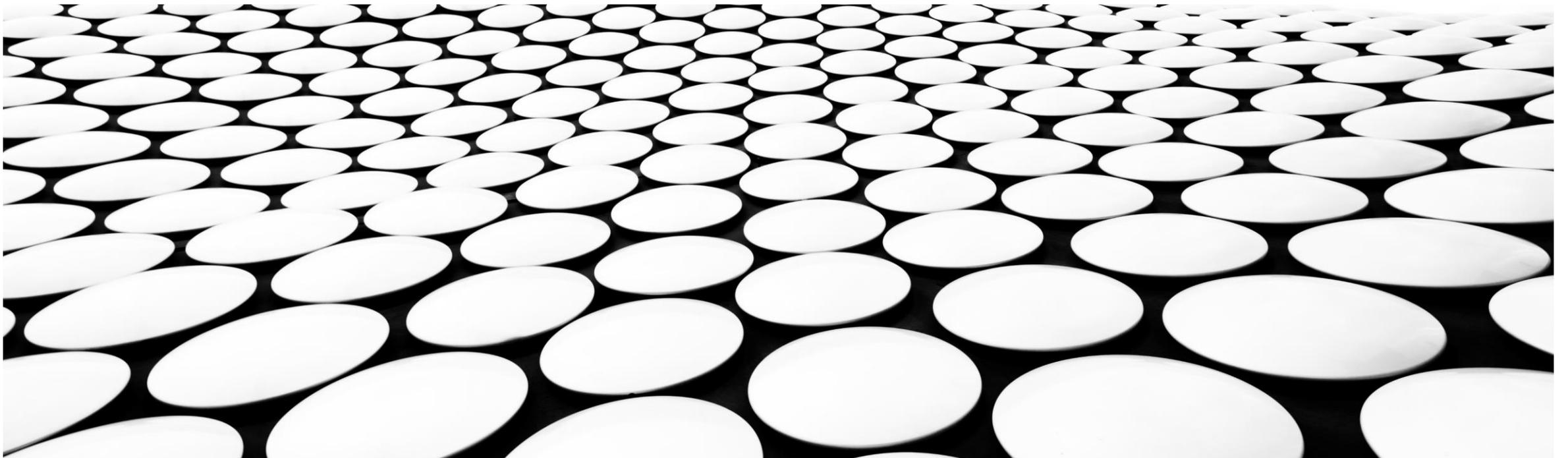


柔道のまちづくりビジョン

2025. 2. 7 久慈市教育委員会



目次

- 1 はじめに
- 2 将来像 柔道のまちづくりイメージ
- 3 将来像へ向けて
 - 3-1 現状と課題
 - 3-2 課題解決に向けた取り組み
- 4 取り組む主体
- 5 参考
 - 5-1 久慈市スポーツ推進計画(抜粋)
 - 5-2 取り組みアイデア

1 はじめに

久慈市は「柔聖」三船久蔵十段生誕の地であり、これまで三船久蔵十段の偉業と功績を後世に伝えるとともに、柔道の指導及び普及や柔道人口の拡大など「柔道のまち久慈」を標榜し柔道によるまちづくりを推進してきました。

競技者人口は、少子化等の影響もあり児童・生徒の人数は減少傾向にあります。なお、三船十段記念館の道場生は平成16年110名、平成26年53名、令和6年12月末現在78名となっています。

令和5年4月に三船久蔵十段生誕140周年を、令和6年1月に没後60回忌という節目を迎え、改めて「柔道のまち久慈」について考えるワークショップなどを開催し、今後、柔道のまちづくりの取り組みを検討する際に目指す将来像として「柔道のまちづくりビジョン」を作成しました。

2 将来像とキーワード

「柔っ子を応援し、人々が集う三船久蔵十段の郷」

顕彰

このまちに住む市民として、名誉市民である三船久蔵先生について関心度を高め、これまで以上に顕彰されている状態を作る必要があります。

柔道人口

人口減少とともに競技人口も減少傾向にあるなか、市内外の大会で優秀な成績を収める児童・生徒が多く活躍しています。柔道に対する関心の拡充のため、柔道を「する人」のみならず「観る人」「応援する人」を含めた柔道人口の拡大に努める必要があります。

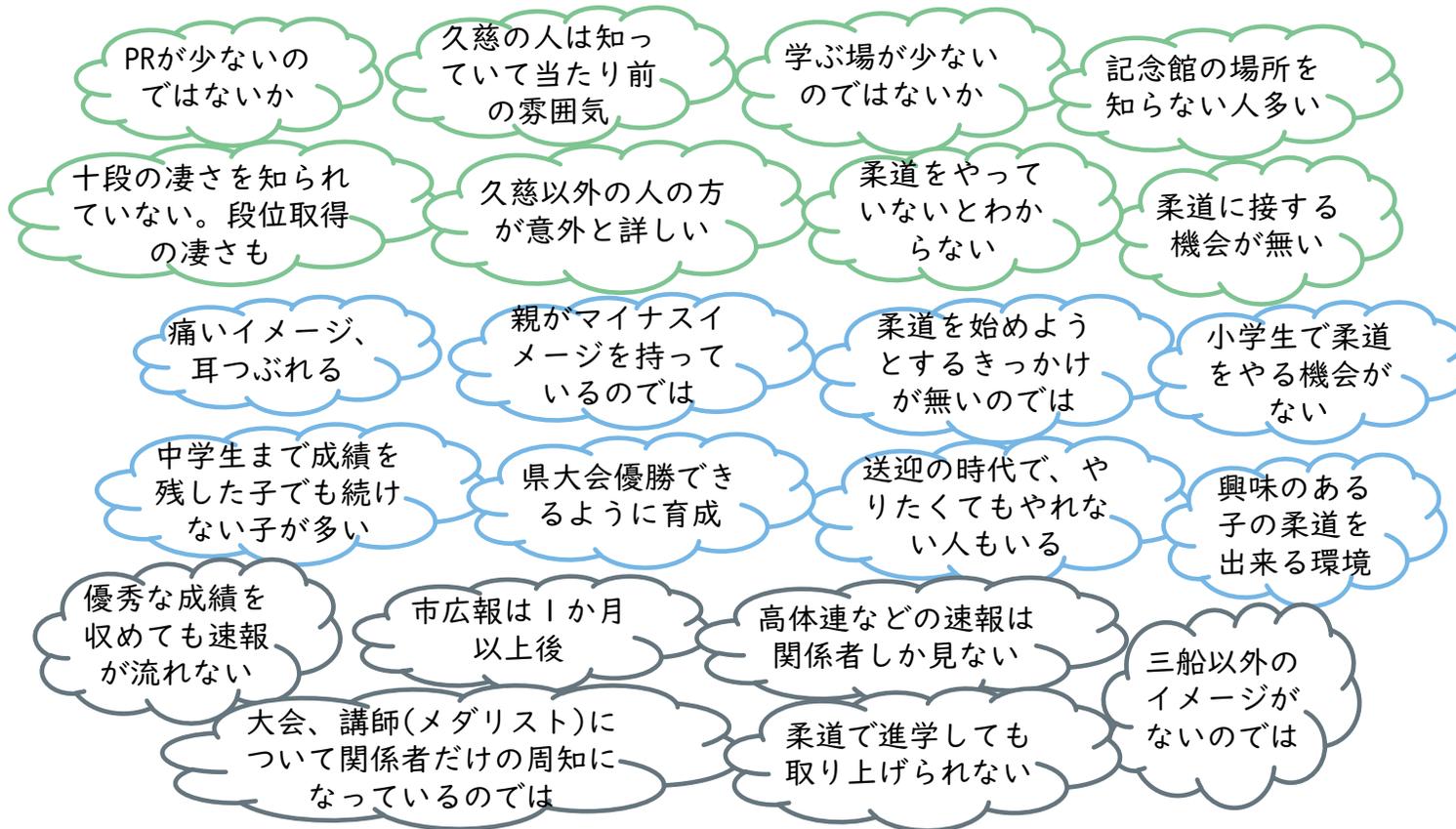
コミュニティ

三船十段記念館がコミュニティの核として機能することで関係人口、交流人口の創出につながっているほか、このまちで柔道に取り組んだ児童・生徒が指導者として子供たちの指導にあたる人材の循環があることから、競技者育成など柔道を通じたコミュニティを維持する必要があります。

3 将来像へ向けて

3-1 現状と課題

柔道のまちづくりワークショップで課題を整理しました。各種事業に取り組んでいることは理解しつつも、「柔道に馴染みのない人にとっては印象が薄いのではないか」というイメージでした。



課題

取り組むべき視点

三船十段記念館や三船久蔵先生について市民があまり知らない

競技人口の減少
競技力の向上

柔道を知る機会がない、情報発信不足、「みる」「支える」柔道人口少ない

3 将来像へ向けて

3-2 課題解決に向けた取り組み

柔道のまちづくりワークショップで整理した課題に対し、どのような取り組みを行うべきか、今必要な取り組みについて話し合いました。(具体の発言内容は、5-2 取り組みアイデアを参照)

課題

課題解決に向けた意見等

三船十段記念館や三船久蔵先生について市民があまり知らない

児童・生徒に学ぶ機会を設けることや、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を活用した情報発信、イベント等へ出展し三船久蔵十段の功績を周知するなどのアイデアが出されました。この他、かるた教材、新たなイベント企画の提案がありました。

競技人口の減少
競技力の向上

他市町村の競技者との交流(大会)の場を作ること、指導者の育成をしていかなければならない意見が出されました。柔道人口の確保に向けては、声かけが重要であり、道場生にも友達を誘うなど口伝えの有効性が挙げられています。

知る機会がない、情報発信不足、「みる」「支える」柔道人口少ない

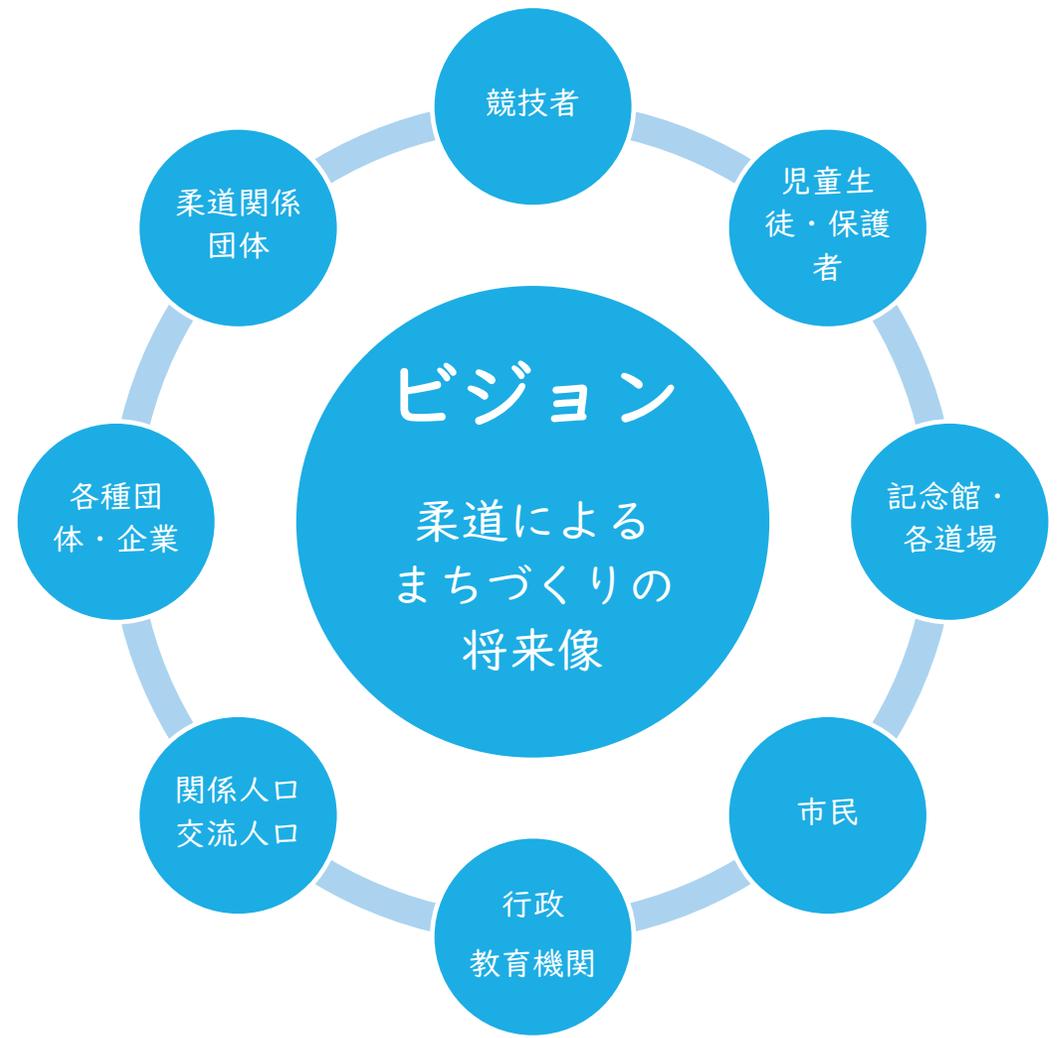
情報発信に関してはスピードが肝心である意見が多くありました。各所のHP(ホームページ)やSNSを活用し活躍している児童・生徒の情報(大会結果等)を迅速に周知する提案がありました。また、三陸沿岸道路を活用した沿岸企画や三船モデル柔道着、ギネス挑戦し話題を作るなどのアイデアが出されました。

4 取り組む主体

柔道のまちづくりを推進するためには、行政だけでは前へ進むことはできません。また、柔道関係者だけが行動しても限界になる可能性があります。

ビジョンの実現には、様々な主体による参加、協力、連携が必要なことは言うまでもありませんが、それぞれが出来ることを少しずつ、連携・協力して課題解決のアイディア等を実践することで、みんなが思い描く「柔道のまち久慈」が現実味を帯びてきます。実現に向けて取り組んでいきましょう。

※ワークショップ参加者の皆様から自身が主体的にできるアイディアも頂きました。(5-2参考に記載)



関係人口…地域には居住していないものの当市の柔道のまちづくり(三船十段記念館運営含む)に関りを持つ人々
交流人口…記念館の見学やイベントに訪れる旅行者等

5-1 参考 久慈市スポーツ推進計画(抜粋)

久慈市スポーツ推進計画は「生涯スポーツの充実」「体育施設の有効活用」「柔道のまちづくりの推進」を3本柱とし、柔道のまちづくりに関しては、各種大会の開催などによる柔道の普及と競技力向上、情報発信、三船久蔵十段の顕彰、柔道人口の拡大や青少年の健全育成などを目的に施策が策定されています。

施策内容は次のとおり。

(1) 柔道競技力向上と地域の活性化

主な施策	主な事業	事業内容
柔道大会、柔道教室の開催	三船十段杯争奪柔道大会	三船久蔵十段の偉業を顕彰し、東北地区の優秀な選手が一堂に会す柔道大会を開催。
	市長杯争奪柔道大会	久慈地域の小学生から一般の選手が参加する市長杯争奪柔道大会を開催。
柔道競技力向上の推進	柔道タウン推進事業(柔道教室)	三船十段杯争奪柔道大会の参加者を対象に、知識習得と競技力向上を目的とした柔道教室を開催。
	柔道タウン推進事業(柔道強化錬成会)	市内中・高校の指導者及び競技者の知識と技術の向上を図ることを目的に、強化錬成会を開催。
	柔道タウン推進事業(柔道強化遠征助成事業)	柔道振興と市内生徒の集中的・重点的な技術強化・育成を目的に、柔道強化遠征への助成を実施。

(2) 親しみやすい柔道の普及

主な施策	主な事業	事業内容
柔道の普及拡大を図る取り組み	三船十段記念館柔道指導	三船十段記念館の道場生に対して柔道を指導するほか、道場生の確保に向けた取り組みを行う。
三船十段記念館の利用促進	三船十段記念館管理運営事業	三船十段記念館の入館者増に向けて、柔道愛好家だけでなく、柔道に馴染みのない人でも楽しめる企画展等を開催するほか、適正な維持管理を行う。



5-2 参考 取り組みのアイデア

ワークショップ参加者から課題解決に向けたアイデアを頂きました。

(1) 記念館、三船久蔵先生を市民があまり知らない

- ・学校での授業対応、社会科見学
- ・保育園・低学年に限らず中・高校生、大人各年代にあった記念館の勉強する機会があれば良い
- ・柔道関係者、教育委員会等で三船久蔵先生について市民へ伝えることが重要
- ・遠征に行くのではなく、記念館に来てもらう(久慈広域や県外)
- ・練習の見学の機会や試合を見てもらう機会を増やす
- ・道場生との交流や、柔道着を着たり、受け身を体験する機会をつくる
- ・イベントでPRする(産業まつり、ハロウィン、夜市などの場で)
- ・久慈市の観光ツアーに記念館をルート設定してもらう
- ・市内の企業向けにPR(大人になってから興味を持った人向け)
- ・子供たちと市長が対談し、様子を動画配信
- ・雑誌を作る。若者がTikTok(SNS)でPRする
- ・市広報で継続的にPR、記念館のたよりも一緒に配布
- ・縄文かるた(地域かるた)のように「十段かるた」を作って市民が知る機会を増やす
- ・きっかけが大事。小学校で柔道着来てボール遊び等するなどして、柔道始めるきっかけを作る
- ・見学の機会だけではなく「十段まつり」というようなイベントの開催、参加したくなるような柔道イベントの企画
- ・山奥だからこそ、坂の下の掲示板等でわかりやすく
- ・駐車場、道路事情の改善整備、送り迎えの最適化

(2) 柔道人口の減少、競技力の向上

- ・国際大会もしくはショーアップされた大会を実施する
- ・交流大会の開催、他県の競技者との交流
- ・県内のスポ少と交流会を行うことで友達が増える、楽しい!というイメージを持たせる
- ・他競技との交流で色々なスポーツの良さを共有する。他のスポーツに流れる人が出るかもですが・・・
- ・柔道留学制度⇒海外のやる気がある実力者を高校卒業までサポート
- ・小学生の遠足や社会見学ルートに三船十段記念館を入れる
- ・産業まつりや道の駅などで、柔道の形を公開するなどイベントで入門生を募集する
- ・他のスポ少に比べて保護者会等が楽なことを親にアピールする
- ・体験教室を開く
- ・三船の子達が誘う
- ・小学校の校庭で遊んでいる子たちに声をかけてみる
- ・指導者も減っている、指導環境(コーチ招聘)の整備、戦績実績のある学校指導者の招聘
- ・市や企業で柔道採用をする。実業団に近いイメージ・・・
- ・久慈市や三船記念館に柔道を求めて他県等からたくさんの方が来てもらえるような取り組み

5-2 参考 取り組みのアイデア

ワークショップ参加者から課題解決に向けたアイデアを頂きました。

(3) 知る機会がない、情報発信不足、「みる」「支える」柔道人口少ない

- ・ 回覧板に勝った人たちの情報をのせて知ってもらう
- ・ インスタで三船のアカウントを作る（練習風景、大会の様子）、久慈市の柔道だけのインスタを作る（三船、学校、全部の話題）
- ・ 久慈市のスポーツ専門のSNSを作る
- ・ 「note」の活用で定期的な魅力の発信をする
- ・ 久慈市のLINEで速報
- ・ 市のHPの背景を三船関係のものにする
- ・ 市のHPでQRコードで動画を見られるようにする・久慈市HP、体育協会HPで結果を掲載
- ・ 車にステッカーを貼って送迎する（親が）
- ・ 久慈出身の高校生、大学生、社会人選手をインタビュー
- ・ 仕事中に大会のLIVE配信を見ても許してもらえるように
- ・ 広報にチラシをはさむ
- ・ 久慈市の動画ライブラリーから、柔道に関する動画、特に歴史的なものをYouTubeで公開する
- ・ 三陸道でつながっている高校と柔道大会など、沿岸全体でのPRをする
- ・ SNSのライブ配信機能を使って柔道ワンポイントアドバイスを流す（ポコチャとか）
- ・ 三船モデルの柔道着をつくる
- ・ 成績を残した人を紹介するため垂れ幕を市役所に掲げる
- ・ 防災無線で功績・大会成績などを発表する
- ・ ギネスに挑戦

(4) その他意見

[景観づくりのイメージとして]

- ・ 柔道に関するものが密に集まっている感じ、久慈市のどこにいても、柔道的なものが目に入る
- ・ 久慈の街中に柔道の写真・動画キャラクターがあふれるくらい、どこでも目に入るように
- ・ 久慈市のあらゆる建物などに柔道や三船十段を彷彿させるデザインやキャラクターを組み合わせてみる
- ・ 市街地の中心部に、柔道に関するシンボルを作っていく

[その他]

- ・ 久慈市で柔道の大会がたくさん開催されている
- ・ 三船十段杯が盛り上がる。動画配信するなど
- ・ 市長が柔道をする（久慈市のyoutubeを子供たちが結構面白がって見ているので）
- ・ 家族の中で1人は柔道をやっている
- ・ 学校でももう少し柔道をしてほしい
- ・ 久慈には、柔道が強い人が沢山いるので、SNSなどで発信して盛り上げたい
- ・ 学校の中でも柔道の話でにぎわってみんなに楽しさを伝える
- ・ 全国から柔道に関するものを集めて、柔道を始めたい人や地域、国などに支援を行う（柔道の理念とも合っているものでは？）

5-2 参考 取り組みのアイデア

ワークショップ参加者から、自身も取り組む主体として「私、こんなことができます!」を伺いました。多様な主体がそれぞれできる力を掛け合わせるにより取り組みを進める大きな力となります。

- 遊んでいる子たちに声をかける
- SNSで広める、興味ある子が増えると思う。
- 学校で部活をやっていない人に声をかける
- 親へのアピール（親目線で）写真撮影、動画・写真の編集
- 高体連柔道専門部と連携して、試合の速報を出す
- 三船スポンサー制度、協力してもらえる企業を募り、ステッカー、ワッペンなどを柔道着につける
- 大会するなら審判として協力できる
- 柔道着を着ての街中イベントなら出られます
- 久慈出身の選手に連絡を取ることはできます
- PRイベントを実施するなら社内で広報・集客します※集まるかは別ですが
- 柔道に関連するHPなどのリンクを久慈市のHPに集約してハブ化する
- 強化ワッペン着用して試合に出る
- 試合している姿を見せる
- 「演舞」技を見せる
- 経験者として、柔道の経験をしていない人に柔道の楽しさ、痛みを正直に伝えていく。
- 絵心のある人に柔道の4コマを書いてもらい広報とかに載せる
- 送迎のやり方を考えたい。
- 柔道教室を企画（強化選手、Youtuberを呼んだりしたい）ツテを最大限利用する。



このビジョンは、「柔道のまちづくり」を推進するための将来像を共有するものです。

具体的な取り組み等はスポーツ推進計画等に定めて事業等を行っていきませんが、計画(アクション)策定の際にビジョンは必要な要素を示しています。

このことから、定期的(3~5年程度)に取り組みの振り返りを実施し、アクション内容、ビジョンについて見直しを行う必要があります。

【ビジョン策定に関する会議等】

<柔道のまちづくりワークショップ>

開催日 令和5年10月27日

令和5年11月22日

参加者 久慈市柔道協会、三船十段記念館父母の会、侍浜柔道教室、久慈市体育協会、久慈高等学校柔道部、久慈東高等学校柔道部

<交流、ワークショップ>

道場生と交流稽古や高校柔道部とワークショップを実施

開催日 令和6年7月18~21日

相手方 CANADA KIZUNA JUDO CLUB

<総合教育会議>

開催日 令和7年1月30日

【発行編集元】

久慈市教育委員会事務局 生涯学習課

TEL 0194-52-2156

